

日赤あomorい

No. 410
2024.秋号

青森県支部
日本赤十字社

日本赤十字社青森県支部 〒030-0861 青森市長島1丁目3番1号 TEL 017-722-2011 <https://www.jrc.or.jp/chapter/aomori/>



写真は令和6年度日本赤十字社第1ブロック支部合同災害救護訓練に参加した青森県支部救護班の様子

赤十字は、動いてる!

+ SAVE365

Japanese Red Cross Society



掲載記事のご紹介

- ・特集！防災減災への取り組み
ACTION！BOUSAI キャンプフェス 2024
地域防災ボランティア養成研修
- ・令和6年度赤十字救援車博愛号配置
- ・令和6年度支部評議員会を開催など
- ・お知らせ！
支部個人ボランティア募集
大阪・関西万博赤十字パビリオンのご紹介など

青森県支部からのお知らせ

令和6年度 赤十字会員増強・活動資金増収運動 実施中!
赤十字会員への加入、会費・寄付金へのご協力をお願いします。

青森県内の赤十字関連の情報を中心に発信していきます。
赤十字の輪を広げるために、皆さんフォローをお願いします!

<https://twitter.com/nissekiaomori>
<https://www.facebook.com/nissekiaomori>
https://www.instagram.com/nisseki_aomori/



X (旧Twitter)

Facebook

Instagram



【特集】防災・減災への支部の取組み!!



ACTION！BOUSAI キャンプフェス 2024 を開催しました！

青森県支部では去る9月7日と8日、今回で3回目となる“ACTION！BOUSAIキャンプフェス2024を開催しました。会場となったモヤヒルズオートキャンプ場(青森市)には、事前申し込みをした県内の家族連れなど24組75名が集まり、普段と一味違ったキャンプ体験をしました。

今回のキャンプフェスには様ざま趣向を凝らしたプログラムを準備。ABITANIAジャージーファーム(鯉ヶ沢町)からは、災害時の牛乳の提供体制や生乳の殺菌方法の実演が行われたほか、牛の乳しぼりや子牛のお散歩、バターづくりの体験を行いました。

また、タイガー魔法瓶株式会社からは、同社の村田プロジェクトリーダーによる、電気やガスを使わず新聞紙でおいしいごはんが炊ける“魔法のかまどごはん”を使用した炊飯体験を行ったほか、キャンプでは定番の薪割体験や火起こし体験、いざという時のための心肺蘇生やAEDの使い方など、災害時にも役立つさまざまな体験プログラムが行われました。

参加者からは、「特に災害時の牛乳は貴重。提供体制やミルクに代用できることを知れてとても良かった」、「前回は参加したが、日頃からの備えが大切であることを再認識した」などの感想が寄せられました。



赤十字地域防災ボランティア養成研修を行いました

8月27日、28日の2日間、風間浦村総合福祉センター「げんきかん」にて、「赤十字地域防災ボランティア養成研修」を開催しました。

この研修は、自助・共助に必要なこころのケアや手当の基本と減災につながる知識を習得し、平時・有事において、自助はもとより共助のためにその知識と技術を活かせるということを目的として、日赤風間浦村分区において赤十字奉仕団の団員らを対象に初の試みとして行いました。

27日は、ボランティアとこころのケアについて講義を受けた後、こころのケアの提供と方法について、ハンドケアなどの実技を行いました。

28日は、心肺蘇生とAEDの使用法、気道異物除去、身近なものを使った応急手当の実技、ダンボールベッドの組み立てなどを行いました。

受講者は、講義と実技を通して、防災・減災力の向上、応急手当の方法やこころのケアに関する知識と技術を身につけ、「一方的にケアするのではなく、相手の立場や気持ちを考えることが大切だと学んだ」などの感想がありました。

支部では今後、この研修会を各地域で実施したいと考えていますので、詳細についてお知りになりたい方は、支部事業推進課(Tel 017-722-2011)までお問い合わせください。



「赤十字防災セミナー」のご案内

～いつ起こるか分からない災害に
日頃から備えておきたい～

地域コミュニティにおける「自助」と「共助」の力を高めることで、地域の住民の方々が自ら、災害からいのちを守り、被災に伴う心身苦痛を軽減することを目的に、当支部では「赤十字防災セミナー」を開催しています。

なお、時間・内容等はニーズに応じて調整して実施いたしますので、先ずはお問い合わせください。(担当：事業推進課 Tel 017-722-2011)



令和6年度支部評議員会を開催

6月10日、令和6年度支部評議員会を開催しました。開催にあたり小谷知也副支部長(青森県副知事)が、本年1月1日に発生した能登半島地震における県支部の救援活動の状況について触れた他、日本赤十字社が行う様々な活動は、寄付者、ボランティア、献血者の方達の困難な状況にある人達を助けたい、という熱いお気持ちが込められていることを改めて心に刻み、支部及び管内施設が一丸となって活動に取り組んで参ります、と評議員の皆さんにあいさつしました。



議案では、令和5年度事業報告及び支部一般会計並びに管内施設それぞれの施設特別会計歳入歳出決算について審議され、全会一致で承認されました。また、報告事項として血液センターから令和5年度事業報告と支部から能登半島地震救援活動の報告が改めて行われました。

令和6年度赤十字救援車「博愛号」を配置しました



おいらせ町での配置式の様子

青森県支部ではこのほど野辺地町、おいらせ町、五戸町、階上町の4分区へ赤十字救援車「博愛号」を配置しました。

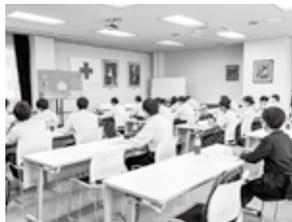
この赤十字救援車「博愛号」は、支部創立100周年記念事業として昭和55年にスタートし災害時

には物資や人員輸送のため、平時においては地域住民の福祉のために活用していただけるよう、当支部が県内の各地区分区へ配置を行っています。

今年度は7月3日に野辺地町とおいらせ町で、7月12日に五戸町と階上町でそれぞれ配置式を行いました。配置式には各町長(分区長)はじめ赤十字関係者も参加。地域での活用をお願いする言葉を添え、記念のレプリカキーを支部事務局長が手渡しました。

血液センターだより 未来の看護師たち、血液センターでの実習を通じて成長

9月9日に黒石高等学校看護科(1年生)の生徒さん40名が、青森県赤十字血液センターと青森献血ルーム(日赤青森県支部)で実習を行いました。この実習は、地域社会における医療施設の機能と看護の役割を理解し、患者との信頼関係を築くためのコミュニケーションの重要性を体験を通じて学ぶことを目的としています。



実習では、血液センターの役割や輸血用血液製剤の管理方法、安定供給の確保について学びました。また、献血の実情についても理解を深め、献血の重要性について考える機会となりました。さらに、医療安全とリスク・マネジメントの方法についても学び、多職種との協働の重要性を実感することができました。

今回の実習を通じて、生徒さんたちは看護における血液に関する基礎的な知識を身につけ、地域社会における医療の現場での見聞を広げることができました。血液センターでは今後も、看護師の成長の一助となるような活動を継続していきます。

令和6年度青森県青少年赤十字高校リーダーシップ・トレーニング・センター/高校指導者養成講習会を開催

8月8日(木)から10日(土)、東北町の公立小川原湖青年の家にて、「令和6年度青森県青少年赤十字高校リーダーシップ・トレーニング・センター/高校指導者養成講習会」を開催しました。

参加者は高校生メンバーが25名、指導者養成研修会には2名の指導者が参加しました。

このトレーニングセンターの最大の特徴は「指示の無い生活」で、参加者は事前に渡された時間割を頼りに掲示板となる黒板



やホワイトボードに必要な情報や連絡事項などを書き出し、共同生活の中でお互いに助け合いながら過ごす必要があります。

初日は、この「指示のない生活」に戸惑う様子が見られた参加者ですが次第に慣れ始め、3日目となる最終日には掲示板を有効活用しながら、互いに声を掛け合う様子が見られ積極的にコミュニケーションを取り合っていました。

3日間のプログラムを終え、参加者からは「研修を通して、態度目標である「気づき、考え、実行する」をより意識した生活ができた」、「初対面の人ばかりで緊張したが、自分から進んで話しかけたりすることができた」、「初日は不安だったが、最終日には帰りたくないと感じるほど楽しかった」などの感想が寄せられました。

赤十字は動いている!

令和6年度赤十字奉仕団リーダーシップ研修会を開催

9月27日、令和6年度の赤十字奉仕団リーダーシップ研修会をリンクステーションホール青森(青森市)で開催しました。

今年度のリーダーシップ研修会には地域及び特殊奉仕団から31名の奉仕団らが参加。研修プログラムでは、中村正奉仕団指導講師による「リーダーシップの在り方について」と題した講話につづき、NPO法人青森県防災士会所属の工藤真巳防災士から「実災害を通じたリーダーシップについて」と題した講話が行われました。災害ボランティアとして被災地での経験が豊富な工藤防災士からの実体験に基づくお話しに参加者は熱心に耳を傾けており、それぞれがリーダーとしての役割の重要性を再認識したと思われる。



午後に行われたグループワークでは赤十字防災セミナーのカリキュラムである「ひなんじょうんえいゲーム」を実施。参加者は次々と訪れる避難者の受入れと各種のイベントへの対応に悪戦苦闘している様子でしたが、時間の経過と共にグループで協力し合い、避難者が抱える事情を考慮しながら迅速に対応していました。本年1月の能登半島地震、また先の大震災の発生を受け、奉仕団員の日頃の備えへの関心も高く、一日を通し積極的に取り組む様子が見受けられました。

【Pick Up】青森県支部からのお知らせ



「ちょこボラ」募集中！当支部で個人ボランティア活動を始めてみませんか？

あなたの力が必要です！私たちの活動に参加しませんか？

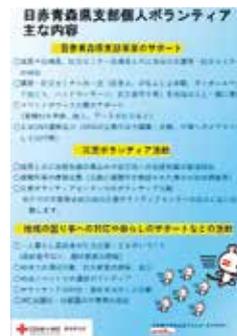
日本赤十字社青森県支部ではただ今、個人ボランティアを募集しています。あなたの力が、災害支援や地域づくりの成功に繋がります。

活動内容

- ・災害支援
- ・赤十字講習および赤十字防災セミナー普及活動のサポート
- ・献血キャンペーンのサポート
- ・地域イベントの運営補助など

※詳しくは当支部ホームページ記載のチラシをご覧ください。

- ・個人ボランティアの募集チラシ
- ・個人ボランティアの活動内容について
- ・個人ボランティアの登録について



大阪・関西万博 赤十字パビリオン（国際赤十字・赤新月運動館）特設ウェブサイトを開設

日本赤十字社ではこのほど、令和7年4月から開幕となる大阪・関西万博への国際赤十字・赤新月運動館の出展にあたり、万博出展の告知やパビリオンへの来館誘引のため特設ウェブサイトを開発しました。

皆さま是非一度ご覧ください！！

URL : <https://expo2025.jrc.or.jp/>



赤十字 WEB ミュージアムにて特別企画

「万博と赤十字～日赤発祥の原点は万博にあり～」を公開中です！！

日本赤十字社では大阪・関西万博における赤十字パビリオン出展参加に伴い万博出展の告知と機運醸成などを目的に、赤十字情報プラザ（東京都 日赤本社内）において企画展「万博と赤十字～日赤発祥の原点は万博にあり～」を開催するとともに赤十字 WEB ミュージアムにて同特別企画を Web 連動特別企画としてただ今公開しています。

この特別企画は赤十字 WEB ミュージアムにパソコンやスマートフォンによりアクセスすることにより、実際の企画展を同様の展示物を居ながらにして Web 上で見ることができます。



「Exposition universelle de 1867 : illustrée」より赤十字パビリオン外観

WEB 連動特別企画 万博と赤十字 (10/01～)



人道支援の記憶と記録
<https://www.jrc.or.jp/webmuseum/>



大阪・関西万博（2025年4月13日～10月13日）国際赤十字・赤新月パビリオン出展

評議員の一斉改選について

赤十字会員の代表として選出されている評議員の任期は3年となっており、令和7年2月13日をもって任期満了となることから、このたび一斉改選を実施します。

評議員は規則の定めるところにより選出され、青森県支部の評議員の定数は、日本赤十字社定款により30名と定められております。

評議員改選についてのお問い合わせは、青森県支部総務課または各市役所・町村役場（弘前市、板柳市、西目屋村、七戸町は社会福祉協議会）の赤十字係までお願いいたします。

献血にご協力くださる皆さまへ

【献血ルーム受付時間】

青森献血ルーム

- 成分献血 / 9:15～11:50、13:45～16:20
- 全血献血 (400・200ml) / 9:15～12:45、13:45～17:00
- 定休日 / 12月31日、1月1日、毎週火曜日(令和4年10月より)

弘前献血ルームCoCoSA

- 成分献血 / 9:30～11:50、13:45～16:20
- 全血献血 (400・200ml) / 9:30～12:30、13:45～17:00
- 定休日 / 12月31日、1月1日

- 青森献血ルーム ☎ 0120-649-489 青森市長島1丁目3番1号 日赤ビル4階
- 弘前献血ルーム「CoCoSA(ココサ)」 ☎ 0120-768-489 弘前市駅前町8-1 大町タウンビル2階
- 青森県赤十字血液センターホームページ <https://www.bs.jrc.or.jp/th/aomori/index.html>

